

会議録

件 名	令和５年度第２回大網白里市子ども・子育て支援推進会議
日 時	令和６年３月１４日（木） １４時００分～１５時２０分
場 所	保健文化センター ３階 ホール
会議参加者	別紙名簿のとおり（出席１３名、欠席６名 井澤委員、山野邊委員、川崎委員、 中村委員、山崎委員、中古委員） 事務局 子育て支援課 糸日谷課長、加藤岡副課長、村田主査、見付主事
１． 開 会（事務局） ２． 委員長あいさつ （委員長） 本会議の委員長を務めさせていただいております所でございます。よろしくお願いいたします。 本日は年度末のお忙しい時期にお集りいただきまして、ありがとうございます。 本日の議題ですが、「令和６年度 利用定員の変更について」、「令和６年４月の保育施設申込状況について」及び「子ども・子育て支援に関する調査結果報告書（速報版）について」となっておりますので、建設的なご意見をいただき、議論を深めてまいりたいと思っています。 委員の皆様のお力をお借りしながら円滑に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 ３． 議 題 （事務局） それでは議題に入らせていただきます。 議事の進行については、条例第７条第１項の規定により、委員長が議長となりますことから委員長にお願いします。 （委員長） それでは、議題の方に入らせていただきます。 ●議題（１）令和６年度 利用定員の変更について ●議題（２）令和６年４月の保育施設申込状況について （委員長） 議題（１）令和６年度 利用定員の変更についてと議題（２）令和６年４月の保育施設申込	

状況についてはそれぞれ関連する内容もありますので、一括して事務局から説明をお願いし、その後に質疑応答に入らせていただきます。

〔子育て支援課 見付より資料に沿って説明〕

【資料1 令和6年度 利用定員の変更について】

【資料2 令和6年4月の保育施設申込状況について】

(委員長)

ただいま事務局から説明がありましたが委員の皆様からご意見、ご質問をいただく前に資料2に記載があるニーズ率について説明をお願いします。

(事務局)

ニーズ率は児童数に対する保育施設の入所希望者数の割合となっています。

(委員長)

それでは、ご意見、質問等がありましたら挙手の上、ご発言をお願いします。

(松本委員)

資料2について、昨年度の1歳児の入所希望者数が148人となっているのに対し、令和6年度の2歳児が144人と減少している。その原因として、令和5年度の1歳児の入所保留者数が27人であったが、保育施設への入所が保留となってしまったことで、保育所が空いている市町村へ引っ越ししてしまったのではないかと。大網白里市内の保育所は自然に隣接した保育所が多く、他市の保護者からは大網白里市は人気が高いはずなのに、人口減少につながってしまっているのか。

令和5年度に入所保留となってしまった児童の令和6年度の状況は把握しているか。

(事務局)

令和5年度に1歳児だった児童は、今年度2歳児となり、定員の枠が増えたため、保留者数が減少しております。令和5年度に入所保留となっていた1歳児の27人については、枠の中で受入が可能となっております。また、令和6年度の入所保留者数となっている1人については、第1希望ではない園を案内しましたが、第1希望の園を希望するとのことで保留の状態となっています。

(委員長)

他にはありませんか。それでは議題1については、進捗状況の報告ということなので、次に進みたいと思います。

●議題（３）大網白里市子ども・子育て支援に関する調査結果報告書（速報版）について
（委員長）

次に大網白里市子ども・子育て支援に関する調査結果報告書（速報版）について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

配布資料の「陳情第１号 大網白里市内に幼保連携型認定子ども園をふやす陳情」に記載の陳情内容については、今年度実施した子ども・子育て支援に関する調査の結果、実際の保育施設ニーズ率などから判断し、計画に記載するか判断していきますので、こちらも踏まえたくえで、説明をお聞きいただければと思います。

〔子育て支援課 村田より資料に沿って説明〕

【資料３ 大網白里市子ども・子育て支援に関する調査結果報告書（速報版）】

【資料４ 「子ども・子育て支援に関する調査（速報版）」の概要】

【資料５ 「子ども・子育て支援に関する調査結果」の分析（「量の見込み」の算定）
方法について】

（委員長）

ただいま事務局から説明がありましたが、意見、質問等がありましたら挙手の上、ご発言をお願いします。

（和志委員）

小学校児童の保護者の対象者数である７５０世帯とは、全何世帯中の無作為抽出になるか。また、７５０世帯とは、市内の全世帯の意見を反映するに値する数値となっているのか。

（事務局）

１，６１７世帯中の７５０世帯に対する調査となっています。また、７５０世帯は対象世帯数としても十分な数値となっています。

（小平委員）

資料４ Ｐ９の問１４－１の回答について 仕方なく子どもだけで留守番させたの割合が増加しているが、これは不安なことだと思う。

（松本委員）

資料３ Ｐ３２の問２４の回答について、希望利用日数が１１日以上としている保護者が多いようだが、これについてどのように対策していくのか。こども誰でも通園制度など、こども家庭庁からさまざまな子育て支援施策が示されているが、それらと子ども・子育て支援事業

計画をどのように関連付けていくか。

(事務局)

こども誰でも通園制度については、今回の調査結果の分析、計画策定をしていくなかで、既存の事業者とのヒヤリング等を行い、計画に反映していきます。

(松本委員)

現在、少子化対策の財源確保のために社会保険料への上乗せが検討されていると思うが、財源を市民が負担したからといって施策が行われないのでは、不平等になってしまう。事業所の施策を行う意思ではなく、事業所に施策を実施してもらうためにはどうしたらよいかを考えてほしい。

(和志委員)

今期計画の中で病後児保育の確保量が1年度単位で算出されていたが、実際、病後児保育の利用を希望する保護者は、1年間毎日まんべんなく希望しているのではなく、同日に希望することもある。資料4 P5の問22-2について、半数以上が病児・病後児保育施設の利用を希望しているという回答になっていることも踏まえ、1日に受けられる定員の増員を検討してほしい。また、P6の問27-1について、未回答の数値が大きくなっているが、回答しにくくする要因があったのか。

(事務局)

病後児保育の1日当たりの需要の算出方法が国の示した分析方法に記載があるか確認します。また、今回のご意見も踏まえ計画策定を行っていきます。

また、問27-1の未回答については、設問に誤りがあったことが影響していると思われます。

(松本委員)

資料3 P24の問19について、子育て支援事業の利用についての意向について、利用したくないの回答が多くなっているが、こちらの実施について検討が必要ではないか。また、公立で実施しているものになるが民間に委託することも併せて検討が必要だと思う。

(事務局)

利用している方は利用していて、利用していない方は利用していないという傾向となっております。民間への委託は現在検討しておりません。

(松本委員)

資料5について、分析方法が国から示されたものがあると思うがそれに基づいた算定の根

拠のみで数値を出すのか、市の状況を加味して、独自のものにしていくのか、計画のポリシーはあるか。

(事務局)

資料5にあるとおり国から示された分析方法による量の見込みを算出しますが、実際の保育需要量であったり、現状を比較しつつ、本会議で皆様のご意見をいただきながら判断し、策定していきます。

(松本委員)

会議の際は、国が示した分析方法による数値と市独自の数値をそれぞれ示していただければと思います。

(委員長)

資料4 P6の問28の回答について、満足度がやや高いが減っていることに対して、市外の保護者からは市内の保育所が人気だという話があったが、そのギャップを分析する必要があると思う。また、資料3 P81の問19-2では、小学生児童の保護者への「市に対して、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待していますか。」の問いに対し、学区ごとに回答結果を出しているが、P49の問36-2では、未就学児童の保護者に対し同内容の質問をしているのに、回答内容ごとの結果となっているため、問19-2の結果集計方法に統一してほしい。

(委員長)

その他、ご意見。ご質問等がありますか。

それでは、本日の議題は以上となりますが、その他として、何かご質問・ご意見がございましたでしょうか。

ないようなので、進行を事務局にお返しします。

ご協力ありがとうございました。

4 その他

(事務局)

それでは事務局の方から連絡事項がございます。

次回の会議でございますが、教育・保育などの「量の見込み」を取りまとめ6月頃に開催する方向で検討しております。

委員長、副委員長と調整のうえ、別途開催通知でご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

5 閉 会 (事務局)